文 華 苑 の 歴 史

—ミツバツツジに願いを込めて—

3月の下旬から4月の上旬にかけて、紫紅色の鮮やかな花が咲くミツバツツジは、かつて、何処にでもある植物として知られていました。しかし近年、住宅開発が進み、この学園前近辺からは姿を消してしまったのではないでしょうか。全国でも、丘陵は住宅地域に姿を変え、山林は4割近くが杉・桧などの同一植物で植林されています。利用価値の少ない灌木は、植林もされず、刈り取られて姿を消してしまうのであります。高速道路で切り出された山肌や植林出来ない山間に、ミツバツツジは辛うじて生息しているのではないでしょうか。人間は、数が多い当たり前の植物には興味が無く、数が少なくなった時初めて興味を抱き、珍しい物、綺麗な物として保護するようです。しかしその時には既に手遅れになっているのであります。レンゲツツジなどは見る影もありません。山桜も少なくなりました。松枯れで手入れされない山々は、旺盛な竹藪か雑木林に化してしまうでしょう。そんな地にたとえミツバツツジが生息していようとも、いずれは姿を消してしまうに相違ありません。当然、そこに生息する草花についても同じことであります。残念なことではありますが、私たちにはどうしてあげることも出来ないのです。

学園前近辺は、かつては低い山々の丘陵地であったのですが、現在は、ほんの一部分にその名残があるだけです。文華苑は、美術館の重要な一部として維持管理してきましたので、40年程前下草刈りが行われていた山林としての面影がはっきりと残されている貴重な地となっています。昨今のその様な実状の中での文華苑は、過去にタイムスリップした所と言っても過言ではありません。そんな地でありますから当然ミツバツツジも生息しております。文華苑を管理する私たちは、その保護と育成に力を注いで参りましたが、ここ数年松枯れの伐採で株が傷んだり、雑木の大木化で生息地の生育に悪影響を及ぼす結果となって参りました。お客様に直接は関係のない地でありますので、最近まで余り気に止めていませんでした。確かに、こんな素晴らしい花の咲く植物がお客様の見える所にもっと植わっていれば良いとは思っていましたが、株が大きく移植が困難ですので、移植しようとは考えなかったのであります。

今年になって、文華苑を管理する保安員の間で、移植出来る物は少し無理してでも移植しましょうという意見が一致しました。そして、少しでも多くお客様に見て頂こうという気持ちが力となって、実施することになりました。そして又、苗木があれば購入して頂いて植え付けましょうという願いも叶ったのであります。私たちが定年になるまでにミツバツツジが大きくなり、文華苑の素晴らしさが一層加味され、お客様にも喜んで頂けるに違いありません。その実現をこの目で確かめたいのであります。苗木は、50本です。4・5年経てば、立派な木になり……。と思っておりました。

ところが、入荷した苗は、10cm余りの苗で、植え付けることが出来ませんでした。植え付ける様になるまで5・6年かかります。今の皆が定年になるまでに花が咲くことは期待出来ないでしょうが、とりあえず、苗床で育成することにしました。魔法でもかけて大きくしたいと私たちは思いました。何年も手入れを繰り返し文華苑を育て、20年、30年して初めてその成果が現われることを知りながらも、自分達の居る間に何とかしたいと思うのは、誰でも自然なことでありましょう。

嬉しい一報が入ってきました。花が期待出来る苗木が29(福)本手に入ることになったのであります。一度諦めた願いが実現へと向かった喜びで、作業に力が入り、何処に植え付ければよいか、他の植物との兼ね合いも考慮しながら懸命に植え付けをしました。又、移植可能の大株を人力で移植しました。

立派に生長してくれることを願い、私たちが館を去る頃、紫紅色のミツバツツジの花が文華苑に咲き乱れる光景を心の隅に留め、今後も、文華苑の手入れに力を注ぎたいと思っております。

保安員一同（新谷・東野・瓜生・小野・田村・大平・種谷）

季刊 美のたより No.131
平成12年4月27日
発行 大和文華館

Copyright ©2007 The Museum Yamatobunkakan. All Rights Reserved.